



CONTENTS

◆後援会会長あいさつ……………	1
◆教育学部長あいさつ……………	2
◆教職大学院を開設……………	3
◆学生の年間スケジュール紹介 ……	4
◆卒業生の声……………	8
◆後援会活動の概要……………	11
◆後援会幹事名簿……………	12



「教師として身に付けて欲しい力」

後援会会長 狩野 明 芳

島根大学教育学部後援会の皆様には、日頃より後援会の活動にご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本年度、会長を務めさせていただくことになりました狩野と申します。皆様のお力をお借りして、他の役員の皆様と共に本学部の学生の学びと進路を後押しして参りたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、文部科学省の中央教育審議会“教育課程企画特別部会”が昨年（H27年）8月26日にまとめられた「教育課程企画特別部会論点整理」を目にする機会がありました。『2030年の社会と子供たちの未来』の項目の中で、これからの子どもたちには、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎に、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、多様な人と繋がり協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められており、そのために学校の意義や教育課程の役割について捉え直すことが必要だと述べられています。

変化の激しい時代を生き抜く子どもたちが、深く考える「思考力」を持ち、知識や技能といった「基礎力」をつけ、それを実際に活かせる「実践力」を身に付けられる教育が求められ、この三つの力に加えて、子どもたちが理解できるように伝える「伝達力」が教師に求められていると感じました。将来教師を目指す学生にとって、本学が取り組んでいる「1000時間体験学修」は、その力を身に付けるに相応しい取り組みだと思います。

私の住む町の「幸運南塾inさんべ」という事業に、「1000時間体験学修」を活用して学生たちが企画・運営に参加しています。この事業は、中高校生が大学生や社会人から直接話を聞き、議論する中で、将来の目標やその実現に向かって何をすべきなのかを見つける気づきの場となっています。参加した中高校生は勿論のこと、教師を目指す学生にとっても貴重な経験になっていると思っています。「1000時間体験学修」を積極的に活用し多くの人と関わり合い、ネットワークを広げコーディネート力を磨くことで、教師ひとりでは解決が難しいことでも、多様な人の力を合わせることが可能となり解決の道が広がると思います。こうして培われた力は、いじめ・不登校をはじめとする複雑で多様な課題や悩みを抱える学校現場の改善に繋がっていくと考えます。

本年度から本学大学院教育学研究科が新しくなり、「教育実践開発専攻（教職大学院）」と「臨床心理専攻」の二専攻となります。学校現場の課題の解決と教育力の向上が更に進むことを期待しています。

本後援会活動では「1000時間体験学修」をはじめとする学生教育活動の支援や就職活動、国際交流、教育環境の整備などの活動に会員の皆様の会費等を財源に支援を行っております。

教職員の皆様のご指導をいただきながら、後援会の活動に取り組んで参りますので、引き続き皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。



「教師になる夢を支えます」

教育学部長 小 川 巖

教育学部後援会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素から、本学部の教育・研究活動、就職支援活動等に多大のご理解とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

今年度入学生のご保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。お子様たちの「教師になる」という夢や将来の「社会人としての自立」に向け、我々学部教員一丸となって支援していく所存です。保護者の皆様の本学部へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

本学部は、平成16年度に、島根県・鳥取県両県の教員養成を担う基幹学部として、鳥取大学の現在の地域学部との再編統合を経て、新たな学部としてスタートしました。医学部や薬学部と同様の、高度な専門職業人を養成する、いわゆる「目的養成学部」です。

本学部の特色として、「1000時間体験学修プログラム」や「プロフィールシート（教師力総合支援システム）」、また、これまでの教師力パワーアップセミナー等を統合しスタートした就職支援活動としての「未来教師塾」があります。

3月25日に卒業した後、多くの卒業生は、遅くともその二週間後には教壇に立ちます。教師は授業をするだけではありません。保護者との面談もあります。また、今日の学校は地域と協働しながら教育を行う使命をもっています。これからの教師は、学校の中での同僚性に留まらず、学校外の地域の多くの教育・教育外専門家等との協働力が必要とされます。

さらに近年、文部科学省は、これからの教員にとって必用な資質として、一生涯、学修し続けるタフさや、持続する探究心・向上心などをあげています。

では、そのような「力」はいつどこで、どのようにつけるのでしょうか？本学部では、平成16年度の新生教育学部から、大学から地域社会に出て行くまでの連続性を意識した学部教育プログラム・体制を構築してきました。講義・演習のみではなく、長い教職生活の基盤になり得る社会人力を、地域に出かけ様々な人たちと交流する「1000時間体験学修プログラム」を発展させてきました。

また「プロフィールシート・システム」は、それを介して指導教員と学生が直に語り合う、学生が自らの育ちを自己評価し、これからの自分に思いをはせるためのポートフォリオです。

評価内容は講義・演習に関連するもののみならず、そこには体験学修成果も含まれています。ただ単に学外にでて体験すればよいというものではなく、送り出す前や後の指導、さらに体験によって自分に何がもたらされたのか、またそれが演習で得た知識・技能と自分の中で統合されているかなど、本学部は、厳密な評価－支援シス

テムを整備した上で体験学修を推進しています。

後援会の皆様には、学内環境整備費はもとより、「1000時間体験学修」に必要な旅費等の援助、就職支援の一環として教職試験対策用書籍整備等、また企業訪問の旅費等の助成もいただいています。さらには、上述した「未来教師塾(教師力パワーアップセミナー)」における面接員としての支援もいただいています。

また昨年、後援会からのご寄付によって、本学部専用のICTルーム、愛称「金魚鉢」のパソコン等設備を一新することができました。改めて御礼申し上げます。



新たに整備されたICTルーム「金魚鉢」

平成26年度卒業生の教員採用試験合格者が過去最高の48名でしたが、今年度はさらにそれを上回る「54名」でした。このような結果を得ることができたのも、学生個々人の学修努力はもちろんのこと、その支援体制づくりにご協力・援助していただいている後援会の皆様のお力添えがあつてのことです。学部教職員一同、感謝申し上げます。

「教師になりたい」という夢を強くもって入学した学生、自分には何ができるのかという不安を抱えている学生など、多様な学生がいます。四年間という限られた大学生活の中で、学生一人ひとりが、将来の夢や未来の目標を自己選択・自己決定し、それに向かっていけるよう、我々学部教職員一同、一丸となって支援いたします。後援会の皆様には、ますますのご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後に、平成28年度からの新たな大学院（教育学研究科）についてご報告します。

主に島根・鳥取両県のスクールリーダーを養成するための「教職大学院」を設置しました。新たな教育学研究科は、この教職大学院（教育実践開発専攻）と臨床心理の専門家を養成する臨床心理専攻の二本柱で構成されます。4年間での学部教育の上に、さらに専門の高度化が可能な一貫教育体制を構築します。

今後とも引き続いてのご支援・ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

教職大学院を開設

山陰地域における次代のスクールリーダーを養成

島根大学では、平成28年度に大学院教育学研究科を改組し、教育実践開発専攻（教職大学院）と臨床心理専攻を設置しました。

このうち、教育実践開発専攻が「教職大学院」で、専門職学位課程です。修業年限は2年、学生定員は学部新卒学生9名程度、現職教員学生8名程度の合計17名、担当教員は専任教員16名と兼任教員（約60名）で、専任教員のうち7名は実務家教員で学校現場での豊富な経験のある教員です。

■スクールリーダーを養成する大学院

教職大学院では、「目指す教師像」に必要な資質・能力（学校創造力、授業デザイン力、子ども支援力）をより高いレベルで身につけたスクールリーダーの養成を目標としています。ここで養成するスクールリーダーとは、日々行われている自己及び他者の教育実践の良さや問題を理論的に分析・説明する（教育活動の言語化）とともに、それによって見出される地域や学校の課題をさまざまな立場の人と共有・協働しながら解決していく一連の過程において指導的な役割を果たせる教師です。

■地域の教育力向上を目指す大学院

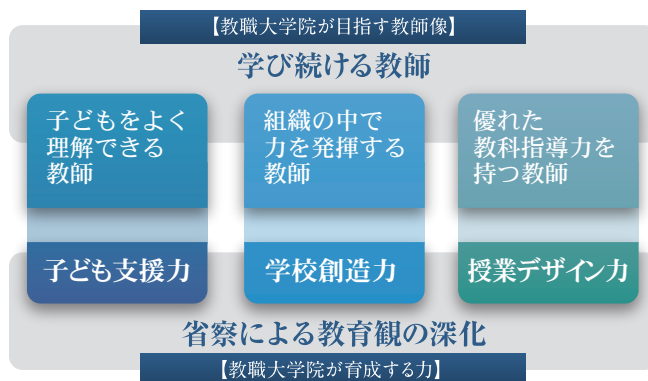
教職大学院教員（実務家教員・研究者教員）は、実習校（現職教員学生は勤務校）の学校教育研究に入り込みながら地域課題と密着した研修を実施することによって、理論と実践の往還を通した学生 の 力 量 形 成 を は か り ま す。

実習校においては、学生の研究テーマの追求を通して教職大学院教員が継続的に関わり、学校現場が今、抱える課題の解決を進めていきます。地域においては、実習校の研究を学生や実習校教員と教職大学院教員が協働しながら課題解決し、その成果を積極的に地域に還元します。

このように、本教職大学院は実習校を中心として地域と継続的に関わり、地域の教育課題の解決をサポートすることにより、地域の教育力向上を目指しています。

■学び続ける教員の養成

教職大学院では、主に山陰地域が有する教育課題を考察対象にしながら、研究手法や教育理論を身につけ、さらにはそれを批判的に検討することをおして、理論と実践を往還しながら学び続ける教員の養成をはかります。

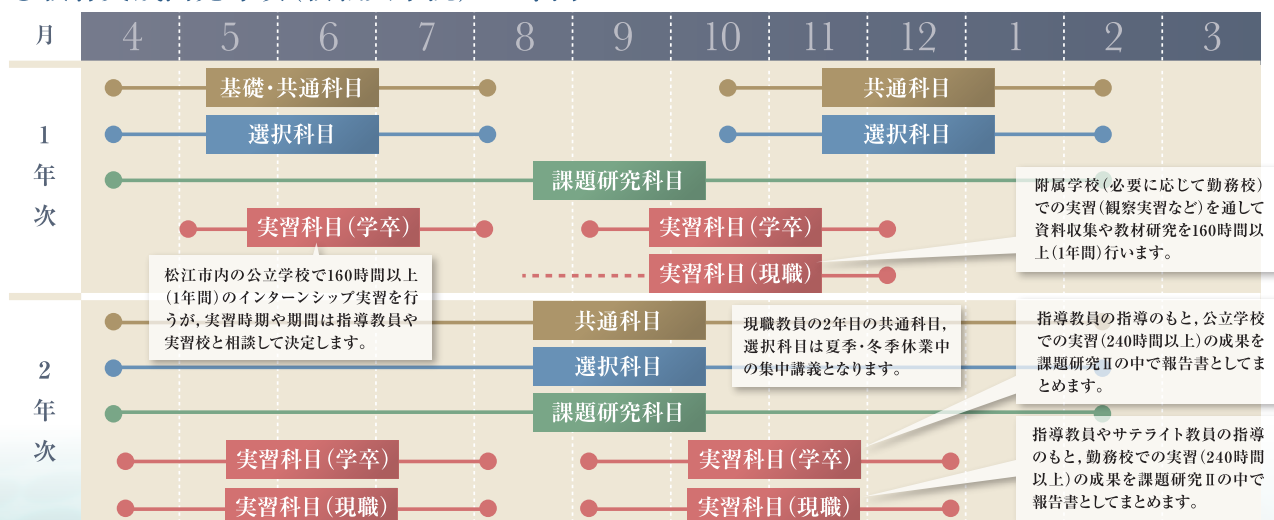


■オーダーメード型プログラム

キャリア発達に応じた科目選択が可能なカリキュラムを提供し、研究者教員と実務家教員の共同による指導の下で、計画的な履修を行います。

現職教員学生は、大学院1年目は大学での講義・演習を中心とする学修を行い、2年目は勤務校での実習を主として行います。学部新卒学生は、講義・演習のほか、大学院2年間を通じて原則として公立学校において継続的にインターン実習を行います。

◎教育実践開発専攻（教職大学院）の2年間



入門期セミナーⅠ・Ⅱ

《入門期セミナーⅠ》

初年次教育プログラムの一つである1泊2日のセミナーです。1000時間体験学修プログラムを理解し、4年間の大学生生活の見通しを持つことを主な目的としています。4年間で共に過ごす仲間や学生スタッフの先輩との2日間の関わりを通し、幅広い人間関係を築くことができます。1年生にとって、大学生活への期待がふくらむ有意義なセミナーです。

《入門期セミナーⅡ》

※水曜4・5コマ、金曜5コマ開講

入門期セミナーⅡは、主専攻又は副専攻を決定するためのプログラムであると同時に、教育学部で開講されている幅広い授業内容を体験する「教育学部入門」としても位置づけられています。各専攻の講義内容や取得可能な免許の説明を受けることができます。



大学祭

松江キャンパスでは「凧風（しょうふう）祭」という名称で毎年10月に開催されています。



基礎体験交流会

1・2年生を対象とした基礎体験の意見交換会です。先輩や他専攻生の話を聞き、今後の各自の基礎体験活動の充実を図ります。

●●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●入学式・オリエンテーション ●入門期セミナーⅠ	●入門期セミナーⅡ	●専攻決定ガイダンス ●一般教養ちからだめし	●学校教育実習Ⅰ ●学校教育実践研究Ⅰ	●主専攻決定 ●在学生ガイダンス ●副専攻仮決定（年度末に決定）	●スタートアップセミナー ●副専攻決定	●大学祭	●介護等体験登録締切	●介護等体験説明会	●基礎体験交流会		

学校教育実習Ⅰ
教職志向・進路調査

学校教育実習Ⅰ（前期・20時間）

附属学校園で5日間、午前中は授業観察を行い、午後は大学で観察のまとめと振り返りを行います。実習後には、第1回教職志向・進路調査を紙媒体とWebによって行います。



学校教育実践研究Ⅰ

学校教育実習Ⅰと連動して水曜3コマに開講されるコア授業科目です。授業（保育）が教師の教授行為と学習者の学習行動との相互作用によって成り立っていることを知り、授業（保育）観察の方法と授業（保育）記録のとり方を中心に学習します。

基礎体験活動開始
（1000時間体験学修プログラム）

必修の110時間（基礎体験セミナー・介護等体験など）と選択の400時間の時間認定が必要です。選択の活動では、地域のイベントや社会教育施設の活動、小・中学校での学習支援など、多様な活動に参加でき、各学年で約100時間が目安になっています。



スタートアップセミナー

入学時からの基礎体験活動の取組みを振り返る、1年生対象の基礎体験セミナーです。体験時間の確認、活動参加への心構えや手続きの再確認を行います。また、小グループに分かれて体験発表会などを行い、今後の活動をさらに充実させていくためのセミナーです。



専攻決定

専攻決定に関しては、どのような入試形態で入学したかによって選択できる専攻が異なります。専攻決定のためのプログラムは、「入門期セミナーⅡ」と「学校教育実習Ⅰ」です。

★副専攻決定について

副専攻は複数免許の取得にも直結していますが、主専攻の免許との組み合わせは教員採用試験受験校種や採用後の勤務形態とも深く関わってきます。

学校教育実習Ⅱ

教育実習Ⅱ（通年・20時間）

附属学校園で行う教科（保育）指導を中心とした観察実習です。主専攻に対応する校種・教科の授業参観・授業協議を行い、ポートフォリオを作成するとともに模擬授業演習等を行うことによって授業（保育）設計の基礎を培います。3年生で行う実習Ⅲを履修するためには、2年生終了時点で下表の中に示した履修資格を満たしている必要があります。

《実習Ⅲの履修資格》

【単位修得】

- ・専門基礎教育科目6単位以上
- ・学部共通科目6単位以上（教職ガイダンスを含む）
- ・主専攻専門科目20単位以上（各専攻ごとに条件あり）

【教育体験活動】

- ・基礎体験領域（選択）120時間以上
- ・学校教育体験領域70時間以上
- ・臨床・カウンセリング体験領域30時間以上（コア授業科目を含む）

充実期セミナー

2年生を対象に開催される基礎体験セミナーです。各自の取組みの傾向をもとにしたグループでの活動を通して成果や課題を明らかにすることを目的としています。また、学内資格を取得している先輩からのアドバイスを受けることもできます。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組みです。3月の「宿泊研修」には2年生から参加できます。教員採用試験の合格者や現任教員である先輩との交流会もあります。



●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●在学ガイダンス					●充実期セミナー			●教員採用試験合格者体験報告会		●基礎体験交流会	
●健康診断					●プロフィールシート(PS)作成説明会					●教師力パワーアップセミナー	
●介護等体験事前指導					●PS返却						
					★PS入力	★PSまとめ			★教職志向・進路調査		
							○C系・G系				
					●在学ガイダンス						
		○学校教育実習Ⅱ									●ポートフォリオ提出締切
		○介護等体験									

介護等体験

特別支援学校及び社会福祉施設（老人ホーム等）で、あわせて7日間の体験を行います。

＜内訳＞

- 島根県又は鳥取県内の特別支援学校での体験（2日間）
（例）授業の補助、学校行事等校務全般にわたる補助等の体験等
- 島根県内の社会福祉施設（老人ホーム等）での体験（5日間）
（例）介護・介助、障がい者等の話し相手や散歩の付添い等の交流の体験、掃除や洗濯等受入れ施設の職員に必要とされる業務補助等の体験等

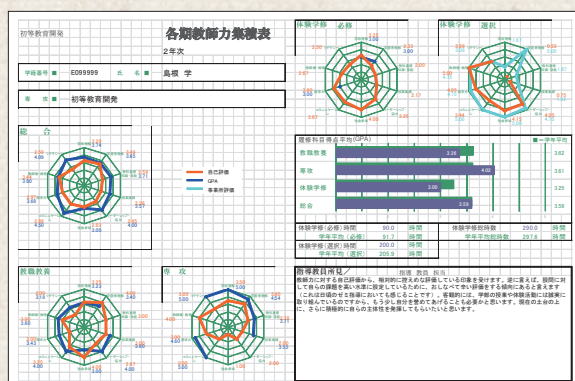
C系・G系

臨床・カウンセリング体験領域における実習で、1000時間体験学修の体験時間としてカウントされます。2年生の後期と3年生の前期に開講され、半期毎にどちらかを受講することになります。C系は個人（子ども・保護者）に対する支援（Counseling）を想定した実習で、相談場面のロールプレイを通して、よりよい聴き方や相手の気持ちに添う関わり方について学びます。G系は学級集団形成など集団における支援（Group approach）を想定した実習で、自分や相手の特性に関する気づきを促すグループ活動を通じて、よりよい学級集団づくりの技能を学びます。



プロフィールシート

大学での学びの状況は、履修単位の成績評価だけで計ることのできない広がりをもっています。プロフィールシートは、そのような学生一人ひとりの学びの成果と軌跡を記録する「カルテ」です。プロフィールシートの作成は、4年間で3回、大学生活の節目の場面でを行います。その目的は、教師に必要な能力の総体である「教師力」の修得状況を、複数の評価視点（自己評価、他者評価、客観的評価）によって可視化し、学びの状況とこれからの目標を確認することにあります。



学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ・Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。前半は実習班で活動し、後半は専攻毎に分かれて行います。主専攻に対応する校種・教科の授業実践に焦点化し、授業分析や教材研究、教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また事後指導では、自らの実習を深化・発展させるための「ふりかえり」を行います。

実習セメスター

3年生の後期は実習セメスターとなっています。この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行います。実習を行わない期間を活用して特別に用意された基礎体験活動を行います。公立小中学校・幼稚園に教育体験に行くことができ、教育実習とこの学外教育体験を往還させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。

学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

●学校教育実習Ⅲ（前期・40時間・1単位）

主専攻に対応した教育実習です。附属学校・私立幼稚園の授業（保育）観察を通して、授業（保育）を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います（人間生活環境教育専攻で幼稚園一種免許型の学生は、私立幼稚園で80時間・2単位の実習を行います）。

●学校教育実習Ⅳ（後期・160時間・4単位）

主専攻に対応し、授業実践に主軸を置いた教育実習です。学習指導に力点を置くとともに、道徳、特別活動等にも取り組みます。学習集団の形成や学級運営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります（人間生活環境教育専攻で幼稚園一種免許型の学生は、公立幼稚園で120時間・3単位の実習を行います）。

●学校教育実習Ⅴ（後期・40時間・1単位）

学校教育実習Ⅲ・Ⅳとは異なる校種での教育実習です。学齢期にある子どもを「成長」「発達」の総体として捉え、より豊かな子供理解を促します。なお、実習を行う校種は学生の主専攻と副専攻の組み合わせによって異なります。

●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習		○学校教育実践研究Ⅱ					○実習セメスター						
		○学校教育実習Ⅲ				○学校教育実習Ⅳ		○学校教育実習Ⅴ					
		○実習セメスター説明会		○実習セメスター合同事前指導									
講義・その他	○在学生ガイダンス ○健康診断	★教職志向・進路調査				○在学生ガイダンス		○面接道場 ○プロフィールシート(PS)作成説明会 ★PS入力 ○PS返却 ○応用期セミナー★PSまとめ ○教員採用試験合格者体験報告会					
	○C系・G系												
						★教職志向・進路・取得予定の免許状調査							
						○教師力パワーアップセミナー							

面接道場 [平成28年12月開催]

外部の目を通して、教育学部学生に対する期待や要望を学ぶ機会が特別に設けられています。それが「面接道場」です。人生の達人である学部評価委員の方々が、面接を通して社会人としての基本的な資質を伝授していただきます。



応用期セミナー

3年生対象の基礎体験セミナーです。実習セメスター及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を促す時間とします。学外体験活動や教育実習での学びの発表会や進路希望別グループでの協議を行います。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組みです。3月の「宿泊研修」に始まり、教員採用試験の面接対策や卒業後の教員生活ですぐに必要なスキルを研修します。教員採用試験合格者や現役教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。



学校教育実習Ⅵ

学校教育実習Ⅵ(前期・40時間・1単位)
[選択]

それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。さらに深めたい学習内容や取得したい免許状に基づき、対応した深化型あるいは副免型の実習タイプを選択します。

教師力パワーアップセミナー
(未来へ向けて)

このセミナーは採用試験に合格した人、不合格だったけれども講師として頑張ろうと考えている人、つまり来年の4月から教壇に立つ皆さんの未来に向けてサポートするものです。
学級担任を想定した「学級開き」の模擬授業やラウンドテーブル、中堅教員との交流会を通して皆さんの教師力をさらにアップさせます。

教師情報入力

これらの情報は、同学年や全国の動向などをふまえ、みなさんの就職支援を行う上で有益な情報となります。たとえば、あなたの現在の履修状況と進路希望とのより良い組み合わせが発見されるかもしれません。また、教員採用試験を受験する予定の県の情報をプログシステムで把握したり、就職を希望する県教委から依頼があった際に、素早く連絡を受けて就職につなげることもできます。

●学部(大学)行事等 ★web入力(必須) ■教員採用試験関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒業研究	○題目提出締切り（指導教員に提出）							○口頭試問 ○卒業演奏試験（音） ○卒業論文提出 ○卒業作品提出（美）				
教員採用試験	■願書提出 ○教師力パワーアップセミナー		■一次試験		■二次試験 ■講師登録		○合格発表		○合格発表		■各教育委員会による 合格者研修 ○教師力パワーアップセミナー（未来へ向けて）	
その他	○学校教育実習Ⅵ ★教職志向・進路・取得予定の免許状調査						○発展期セミナー ○在学生ガイダンス（就職・進路調査）		○教育職員免許状申請手続		○卒業式 [PS返却] ○進路状況調査	
	○在学生ガイダンス ○健康診断 ○進路希望調査						○プロフィールシート（PS）作成説明会 ○PS入力		○PSまとめ 入力			
							さらに自分を磨く基礎体験（学校体験を中心に）		○1000時間体験学習修時間認定締切り ○大学院出願（Ⅱ期）		○大学院入試 （Ⅱ期）	
	★教員採用試験・就職活動で変化がある度に就職支援室に報告する。また教師力育成総合支援システムにも同じ内容を入力する。											

教員採用試験

先輩からのアドバイス

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果をまんべんなく
- ◆二次対策(面接、実技など)も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手をつけても意味がない。同じものを何回も
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける(息抜き時間も必要)
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる(仲間は大切)

未来教師塾

教員採用試験対策

〈教師力パワーアップセミナー〉

- 主に面接(集団・個人)、集団討論の練習
- 教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をしてくださいます。
- ここでのアドバイスはとても重要。

〈就職支援室〉

- 証明写真の試し撮り、面接の様子を撮影してくれるサービスを開始
- 各都道府県の教員採用試験動向情報を提供
- その他の就職相談

〈その他〉

- 教員採用試験受験テキストブックをチェックする
- 各種セミナーに積極的に参加する。
- 学部情報ブログをチェックする。(教員採用試験情報が日々更新)



卒業生の声

多くの学びを得た大学生活

初等教育開発専攻 三宅 歩実



私は子どもと関わる職に就きたいという漠然とした夢を持ち、島根大学教育学部に入学しました。島根大学教育学部には、講義はもちろん、1000時間体験学修といったボランティア活動や学校教育実習、実習セメスター等の特色あるプログラムがあります。教師になるかならないかはどうであれ、自分にとって様々な経験を積むことができ、自分の成長につながると思い、入学を決めました。

入学当初は、教師になるという強い意志はありませんでしたが、1000時間体験学修や学校教育実習等の経験を積むことで、教師の仕事のやりがいや子どもと関わることの楽しさを知り、「教師になりたい」と次第に思うようになりました。特に教育実習では、実際に子どもたちの前で授業をしたり、関わったりしていく中で、多くの失敗があったり、力不足で悔しい思いをしたこともありましたが、自分の強みや今後の課題を見出すことができ、自分を成長させてくれるとても貴重な経験となりました。この経験がきっかけとなり、教師を志すようになりました。

また、大学4年間を通して、手厚く指導してくださる先生方や互いに高め合って切磋琢磨していける仲間にも出会うことができました。特に教員採用試験対策では、多くの先生方に熱心にご指導していただき、辛く苦しい試験勉強を仲間と一緒に乗り越えることができました。この採用試験を通して、先生方や友人、家族等の多くの人の支えに対して感謝の気持ちが芽生えたと同時に、自分は多くの人の支えによって成り立っているということに気づくことができました。

私は、この春から岡山県の小学校教諭として教壇に立ちます。不安な気持ちもありますが、教員になった姿を想像すると、これからの新しい生活や新しい出会いに対して楽しみな気持ちもあります。大学生活で得た多くの学びやこれまでの感謝の気持ちを忘れず、自分なりに精一杯頑張っていきたいと思います。(岡山県出身)

高め合える仲間がいる

言語教育専攻 国語教育コース 増田 亜美



私は、将来山陰に貢献できる教員になりたいと思い、島根大学に入学しました。入学した当初は、初めての一人暮らしや課題として出るレポートに悪戦苦闘の日々でした。しかし、友人と協力しながら課題をこなしたり、サークル活動に参加したりしながら、徐々に充実した大学生活を送れるようになったことを思い出します。

島根大学教育学部は、仲間と交流しながら学べる環境が一回生の頃から充実しています。同じ教員という夢を目指す仲間、教職を学びながらそれぞれの道へと努力する仲間がいます。この四年間、多様な価値観の中で生活しながら、改めて自分らしさを見つけることができました。

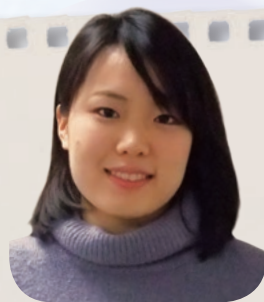
島大教育学部では、一年次から教育実習が始まります。段階を踏みながら、子どもたちとの関わり、授業者としての専門的な知識・技術を得ることができます。また、教育実習だけでなく、1000時間体験という活動があり、三瓶山でのボランティア活動や、公立学校での学習支援、部活動の支援など様々な立場から子どもたちと関わる機会があります。様々な活動を通して、自分の苦手な所や魅力に気づくこともできます。

教員採用試験について、不安を感じている保護者の方もおられると思います。合格への一番の近道は一人一人の努力です。しかし、教育学部の先生方は私たちの力を信じ、合格に向けて面接練習をはじめとするサポートをしてくださいます。また、一番近くに互いを高め合える仲間たちがいます。私自身、多くの人の支えの下で、鳥取県の小学校教員採用試験に合格することができました。いよいよ憧れていた教員としての生活が始まります。多少の不安はありますが、島根大学で学んできたことが全て私の背中を押してくれています。各地では共に努力してきた仲間も活躍しているでしょう。これからも、私らしく子どもたちと輝いていきたいです。

(鳥取県出身)

私の気持ちと大きな支え

言語教育専攻 国語教育コース 吉富 一步



入学当初、良い授業を実践するための「学びたい！行動したい！」という私の気持ちに、多種多様な1000時間体験は非常に有意義でした。国語教育コース専攻であっても、理科教育に関して学べたり、多様な年齢の子どもたちと関わる事が出来たりと視野が広がりました。1000時間体験を通して、大学の先輩、後輩だけでなく、教員や社会教育施設の方、企業家、農家など多様な職種、年齢の方と関わる事ができ、異なる考え方や、人との関わり方を学ばせていただきました。さらに、1000時間体験で出会った先生にお願いをして授業の見学に行かせていただいたりと、自ら行動していくようになりました。そのような出会いから「学べば学ぶほど、さらなる課題が見つかる」「行動すればするほど、手に入るものは大きい」との経験をさせていただき、大学においても、大学を超えても、学びに対して意欲的になりました。その日々の学びを深化させるものは、毎年行われる教育実習でした。段階的に、仲間と子どもたちに向き合うことで、自分にはなかった視点を加え、自分の考えをぐっと深め、新たな課題を得る。そうして4年間を過ごしました。

幾度か「一人で行動してすごいね」との言葉をいただいたことがあります。確かに、学びたいことがあると実現させてきました。しかし、その学びは私一人で成り立つものではなく、私の気持ちを汲んで、周りの先生方や仲間が尽力、協力してくださってはじめて成り立つものでした。そのような環境に自分がいられたことが非常に幸せだったと感じています。

来年度から、広島に戻り、子どもたちと共に日々を過ごします。子どもたちが頭を稼働させる瞬間を授業につくりたい。生涯学ぶ中で、子どもたちはスタートに立ったばかりです。学びの先輩である私が、学びの酸いも甘いも子どもたちに伝え、学んでいく者同士として楽しいことに目を輝かせていきたいです。(広島県出身)

Inquisitiveness

言語教育専攻 英語教育コース 藤田 航平



私は、この大学4年間で、友達と遊びました。英語に熱中し、勉強に没頭しました。本を読みあさりしました。アルバイトでお金を貯めて、旅行にも行きました。デートもしました。部活動に所属し、スポーツに明け暮れた時期もありました。その中で、私の原動力になったことは、「分からないことに対する好奇心」だったと思います。自分が経験したことないこと、分からないことに対して、素直に知りたい、体験したいと思い、動き、学ぶことが最高の贅沢の一つでした。

それを満たすためのカリキュラムが島根大学は充実しています。座学で学んだことを生かすための場、教育実習や1000時間体験活動、国際交流活動などがしっかりと整備されているため、常に活動に取り組む意欲が継続され、同時に次の未知との出会いもあります。実際に私は、国際交流活動の一環として、アメリカに交換留学として行ってきました。そこでは、日本とアメリカの違いもあり、星の数ほどの疑問や未知が一斉に襲い掛かってきて、「学び」の連続でした。それからは普段の日常の中に、意識さえすれば、十分な好奇心の源になるものがあると感じました。しかし、一方で、ただ座って、携帯を眺めているだけでは、他の人は何もやってはくれません。整った環境の中で、どれだけ自分の足と頭を使って動くことができるかが、この大学生活のカギだったように思います。

4月からは、島根県の高등학교の英語教員として働きます。子どもたちの飽くなき好奇心を伸ばすために、まずは自分自身が常に学び続ける姿勢を貫き、それを持って子どもたちと接していき、影響を与えていきたいです。その結果、子どもたちが「学び」の面白さに気づき、主体的に行動できるような教育を行っていききたいです。(島根県出身)

島根大学教育学部の“いいところ”

共生社会教育専攻 中尾 優貴



新入生保護者のみなさん、教育学部生は1000時間体験学修の中で様々な体験をします。教育実習はもちろん、スポーツ指導や社会教育施設でのボランティア活動など、その内容は非常に多彩です。以上のような活動の中で、私たちはたくさんの人に出会いながら多くのことを学びます。

私は大学院に進学した後、小学校の教師として働きます。しかし、もともとは高等学校の教師を目指して教育学部に入学しました。数々の体験活動に取り組む過程で、小学校の教師になりたいと考えようになったのです。その中から、1番のキッカケになったものを紹介します。それは、ある小学校のセカンドスクール活動でした。この活動にはじめて参加したとき、私は子ども達を厳しく指導することができませんでした。例えば、集合の直前であっても遊び続ける子ども達に対して、中途半端に呼びかけることしかできないで自分の未熟さを痛感したことを覚えています。それと同時に、友達同士でぶつかって涙を流しながらも一生懸命に活動を行う子ども達の姿と、彼らの気持ちに正面から向き合い、毎晩の会議では子どもの様子や翌日以降の予定について話し合われる先生方の姿に、強い衝撃を受けました。その時から、“小学校教師になる”という明確な目的意識を持って様々な場面で子ども達と関わっていきました。そして、失敗を繰り返しながらではありますが、苦手とする厳しい指導をはじめとした大切な経験を積むことができたと思自負しています。

1000時間体験学修を通して習得する知識や技術、そして素晴らしい思い出は私たちの心強い武器になると同時に素敵な宝物になります。そして、こうしたキラキラと光る宝物をたくさん身に着けられるのが、私は島根大学教育学部の魅力だと思っています。(島根県出身)

4年間の学び

自然環境教育専攻 渡部 紗英



入学当初は、大学卒業後の進路をはっきりと決めていたわけではなく、教員になるかどうか迷っている状態でした。そのため島根大学教育学部の特色である「1000時間体験学修プログラム」では、小中学生の学習支援活動、障がいのある学齢児童生徒の支援活動、中学生や高校生と将来について考える活動など様々な場で活動を経験しました。理科の教員を目指すようになってからは、小学生を対象にした実験教室や中学校の授業中の実験支援も行いました。

今までは「教えられる」立場であったのが、活動では「教える」立場になります。子どもを預かる責任や自分の言動に対する責任に戸惑い、自分の未熟さをたくさん感じました。特に、学習支援や実験教室では、知識が浅いため子どもの疑問に答えられないことや、子どもの目線に立つことができず子どもが感じている難しさに気づけないこともありました。また、活動を通して教員という仕事の大変さも様々な視点から感じ、教員を目指すことへの不安を感じたこともあります。しかし、周りには私と同じ悩みを抱えている友人や、悩みを聞いて一緒に考えてくださる先生など支えてくれる人の存在があり、できないことにも前向きに挑戦することができました。1000時間体験学修プログラムでは、たくさんの活動の中から自分の興味に合ったものを選択することができるので、経験を広げることも深めることもでき、自分の新たな一面にも気付くことができます。また、活動に参加することで社会に出て働いている人たちに関わる機会も増え、様々な生き方を知ることできます。

4月からの教員生活に対しては不安も大きいですが、子どもの目線に立ち一緒に考え、共に成長していく教員を目指します。そして、私自身が感じた理科の魅力や面白さをしっかりと生徒に伝えていきたいと思っています。(島根県出身)

後援会活動の概要

平成27年度

1. 学生教育活動の支援

- ①1000時間体験学修、面接道場、教師力パワーアップセミナー、ビビット広場など学生教育活動事業経費への助成
- ②学生の体験活動等の交通費補助（全学年）
- ③大学院生の学会発表等の交通費補助
- ④ICTルーム等の環境整備への助成



ビビット広場



明るくて快適な
ICTルーム 金魚鉢

2. 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため、各実習受入校の実習経費への助成（学生が実習で使用する文房具や教材等への助成）
- ②教育実習ワークシート作成への助成



教育実習

3. 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助
教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費への助成
- ②教員採用試験受験テキストブック作成に関する経費への助成

- ③就職支援室の書籍整備等への助成

- ④企業志望学生の支援

就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費の助成

- ⑤4年生の就職活動の交通費補助

- ⑥教員採用試験の模擬試験の受験料補助

4. 国際交流活動の支援

釜山教育大学校（韓国）との交流事業等への助成、テキサス大学、ミシガン大学学生との交流活動への助成

5. 教育環境整備の支援

構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成（トイレ内整備、玄関の花壇整備など）



正面入口前広場の花や観葉樹

6. 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部の教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

7. 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成



就職支援室

平成28年度

教育学部後援会幹事名簿

地 区	氏 名	在学年	学生氏名	備 考
出雲市	石 橋 利 正	4 年	石 橋 奎 吾	幹 事
雲南市	狩 野 明 芳	4 年	狩 野 雅 文	会 長
松江市	山 本 大 介	4 年	山 本 友 香	副会長
雲南市	渡 部 祐 治	4 年	渡 部 恭 輔	幹 事
松江市	足 立 智 伸	3 年	足 立 知歌子	幹 事
米子市	荒 木 祥 子	3 年	荒 木 裕 輔	幹 事
雲南市	永 井 厚 守	3 年	永 井 雄	副会長
出雲市	日 野 寿 明	3 年	日 野 佳寿美	監 事
松江市	石 原 秀 夫	2 年	石 原 翼	監 事
松江市	勝 部 宏 行	2 年	勝 部 友 香	幹 事
米子市	松 原 智 子	2 年	松 原 直 哉	幹 事
出雲市	山 根 充 司	2 年	山 根 真 美	会計幹事

(順不同、1年生からの幹事は未定)

- 発 行 島根大学教育学部後援会
E-mail edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp
ホームページURL <http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html>
- 発行日 平成28年4月1日
- 発行所 島根大学教育学部内 教育学部後援会事務局
- 所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852-32-6251)
FAX (0852-32-6259)
- 印 刷 株式会社谷口印刷